

経済産業省への追加説明依頼項目

1. 様々なCO₂削減技術におけるCCSの特徴、他の技術と比べた優位性について具体的に示されたい。
2. 諸外国におけるCCSへの取組の背景とその現状、それと対比した我が国のCO₂削減におけるCCSの効果と現実的な見通し寄与度を定量的に示されたい。また、そのような状況の中で、国内でCCSの大規模実証を行う意義、必要性、緊急性を説明されたい。
3. 本実証試験で明らかにする技術的な課題及び目指す技術的な姿は何か。これまでに実施した研究開発の成果等はどのように活用、反映するのか。また、現在実施している研究開発等とはどのような関係にあるのか。それぞれについて、分離・回収、輸送、貯留ごとに明らかにされたい。関連事業について、その目的、目標、内容、年次計画(予算規模を含む)、実施者、その成果を具体的に示されたい。
4. また、本実証試験で明らかにする経済的な目標とその効果は何か。具体的な技術モデルによる経済性、定量的なコストの分析結果の比較を示されたい。これまでに実施した研究開発の成果等はどのように活用、反映するのか。また、現在実施している研究開発等とはどのような関係にあるのか。それぞれについて、分離・回収、輸送、貯留ごとに明らかにされたい。関連事業について、その目的、目標、内容、年次計画(予算規模を含む)、実施者、その成果を具体的に示されたい。
5. 本実証試験において諸外国のCCSの取組と差別化する技術開発・課題の有無、ある場合はそれは何か。また、諸外国との連携や協力はどのように進める予定か。例えば我が国の技術を持って諸外国におけるCCSの実施によるCO₂排出権確保のような構想はあるのか。
6. 2020(平成32)年CCS本格実施に向けたプロセスを具体的に説明されたい。その中で10万トン/年規模の本実証試験の役割、目的、意義を明らかにされたい。また、2013(平成25)年度以降の本実証試験で整備する試験設備の取り扱い(予算的措置を含む)等を明らかにされたい。

7. 実施が想定されている貯留 CO2 モニタリングの内容、規模、期間などを示されたい。
8. 終了年度における本実証試験の具体的な目標とその達成判断の指標を、具体的なデータに基づく根拠とともに、可能な限り定量的に示されたい。また、終了年度の目標達成に至るアクションプランを具体的に示されたい。
9. 実証内容について、どのような技術(モニタリングを含む)を想定して事業費を積算しているのか。具体的な費目は何か。年次ごとに示されたい。
10. 本実証試験を実施する上で根拠とするCCSの安全性及び環境への影響に関するデータ(例えば候補地周辺住民に対する説明予定の資料から候補地が特定できる部分を除いたもの等)を示されたい。
11. 交付先が2件というのは、本実証試験を2カ所で実施することなのか。また、実施者の要件として、具体的に想定している条件等を示されたい。
12. 本実証試験の実施期間を5年間とした理由は何か。特に CCS の本格導入に向けた年次計画と本実証試験の年次計画(第1回評価検討会資料 2-1 の p.8-9)を見ると、分離・回収、輸送、圧入の設備の建設から、圧入、貯留とモニタリングに移行する 2011(平成 23)年度又は 2012(平成 24)年度に一つの区切りがあるが、これをまたいで事業実施期間としている理由は何か。
13. 本実証試験の推進体制において、CCS 研究会と審査委員の役割、権限、メンバーの選考方法などを明らかにされたい。また、CO2 削減技術として CCS の役割や効果は、他の CO2 削減技術の開発・実用化動向等に応じて相対的に変化していくものと考えられるが、そのような CO2 削減技術としての CCS の評価の検討や、その検討結果の本実証試験実施への反映(中止、加速化など)は、どのような仕組み、体制で行うのか明らかにされたい。